



九州作業療法学会 2022 in 佐賀

Kyushu Occupational Therapy Congress 2022 in Saga

いと
「維 遂」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

プログラム・学会誌

学会会期

2022年6月18日土・19日日 (Web配信)

配信本部
(会場)

ホテルマリターレ創世 佐賀

〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東2-5-15

学会長

山口 洋一

一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人静便堂 白石共立病院)

主催

九州作業療法士会会長会



九州作業療法学会 2022 in 佐賀

Kyushu Occupational Therapy Congress 2022 in Saga

いと
「維 遂」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

プログラム・学会誌

学会会期 2022年 6月18日(土)・19日(日)

形 式 Web配信

配信本部 (会場) ホテルマリターレ創世 佐賀
〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東2-5-15

学会長 山口 洋一
一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人 静便堂 白石共立病院)

主 催 九州作業療法士会 会長会

九州作業療法学会2022 in 佐賀 事務局

一般社団法人 佐賀県作業療法士会

〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566 医療福祉専門学校緑生館 内
E-mail: kyutot2022@gmail.com

INDEX

学会長挨拶	1
祝 辞	2
参加者の皆さまへ	3
座長の皆さまへ	4
発表者の皆さまへ	4
優秀演題の表彰について	5
日 程 表	6
プログラム	8
抄 録	
基調講演	12
教育講演1～3	14
シンポジウム1・2	20
eスポーツ	36
九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画	38
リーダー養成研修会	42
一般演題プログラム	46
組 織 図	52
協賛企業一覧	54
後援団体一覧	55
編集後記	56

学会長挨拶

「維遂(いと)」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

九州作業療法学会2022 in 佐賀

学会長 山口 洋一

(特定医療法人静便堂 白石共立病院)



この度、九州作業療法学会を2022年6月18日(土)～19日(日)の2日間、佐賀県にて開催致します。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症による行動自粛など多くの活動が停滞し、人々の生活様式が変わり、新たな価値観が定着してきています。一方で近年、社会生活のスピード化などめまぐるしく変化する社会情勢の中にあって、我々作業療法士も日々進化しております。作業療法士として当然のことながら、この状況に適応し、対応することが重要な意味を持ちます。クライアントに対し、活動、参加に焦点を当て働きかけること、そして作業療法士を育成してスムーズに世代交代のバトンを渡すこと、このような「つなぐこと」の重要性を感じております。

そこで今学会テーマは「維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～」と致しました。【維遂(いと)】の「維」には、「つなぐ、ささえる」の、「遂」は「成し遂げる」の意味があります。「つなぐ。つなげて、成果を出す」、正に作業療法の本質が問われるものを掲げております。

このような状況下での「作業でつなぐ、つなげる」という意識は、今後も不可欠な要素であろうと考えます。その対象は、クライアントのみならず、我々作業療法士や地域全体も含まれます。具体的には、クライアントと地域とのつなぎ、多職種と連携することが重要だと認識します。作業療法はこの「つなぎ」という特性としての技術、手法を持ち合わせるアプローチだと信じています。このことは領域や分野を問わず、作業療法士の意図(維遂)として、これまでも実践されてきており、今それが期待されていると言えます。一方で、これまで積み上げた技術や手法を次の世代の作業療法士に伝え、育むこともまた重要な課題です。育むこと、様々な立場やフィールドでつなぐこと、そして未来の作業療法への思いで、学会を展開して参ります。

感染症の収束の目処も立たず、予断を許さない状況にあるため、安心、安全にご参加いただけるように、オンライン開催と致します。たとえ対面でなくとも、多くの作業療法士でつなぎ合える場になれば幸いです。多くの方々のご参加を頂き、この学会が維遂(いと)になればと願います。

2022年3月吉日

祝 辞

九州作業療法学会 2022 in 佐賀 開催にあたって



一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中村 春基

平素より、日本作業療法士協会の活動にご支援を賜り心から感謝申し上げます。
この度、山口洋一大会長のもと、九州作業療法学会2022 in 佐賀「維遂(いと)～育み、つ
なぐ。そして明日～」が開催されますこと心よりお喜び申し上げます。また、開催に際して
ご協力いただきました役員、会員、行政、関連団体の皆様に心から敬意を表します。本大会
が九州の作業療法の発展に寄与することを確認しております。また、特別講演の機会も頂き、
感謝しております。Webでの開催とのことですが、多くの作業療法士のご参加を祈念して
おります。

さて、せっかくの機会ですので、協会の動向を少しご紹介します。各九州士会の活動とも
関連がありますのでご承知いただければ幸いです。一つ目に、協会員=士会員についてです
が、すでに半数以上の士会において規約などの整備はそろっていますが、全国一斉に取り組
む必要があること、また、協会システム整備と連動していますので、時間的には2025年ご
ろになる予定です。

次に、人材育成は士会、協会にとりましても重要課題です。しかしながら、近年の役割、
機能の拡充に伴い根本的な見直しが必要と考えています。現在、新生涯研修システムの全体
構造は確定し、それに基づくカリキュラム作成を行っているところです。来年度には完成さ
せ、2023年からは各士会で運用していただけるよう準備を進めています。現行制度とは大
きな変更がありますので、士会及び会員の皆様には丁寧な説明と資料提供を行ってまいり
ますので、宜しくご協力をお願い致します。

MTDLPの活用につきましては、MTDLP室を設置し内容、体制構築等総合的に取り組ん
でいます。臨床実習講習会におきましてもMTDLPを用いた事例で症例検討を頂いている
ところですが、臨床、学校養成施設での更なる充実が図られることを期待しています。その
他、組織改編、第四次5か年戦略策定、システム開発等々、様々な課題に取り組んでいます。
その詳細は都度協会機関誌に掲載しておりますのでご確認下さい。

最後に、「作業療法士は作業療法室から出なさい」、これは、45年前、兵庫県リハビリテー
ションセンター中央病院に入職したおり、当時副院長であられた澤村誠志先生から頂いた言
葉です。この言葉の背景には、利用者中心、生活支援、人権の尊厳があると思います。
MTDLPの実践を通して、それを確実に実践していただければ幸いです。多くに皆様が参
加いただき、明日からの作業療法の充実と、合わせて、皆様のご健勝と各士会の益々のご発
展を祈念しております。

参加者の皆さまへ

1. 学会参加費について

(1) 作業療法士(○：加入 ×：未加入)

都道府県士会	OT協会		金額
○	○	九州圏内	6,000円
		九州圏外	7,000円
×	○	九州圏内	12,000円
		九州圏外	
○	×	九州圏内	6,000円
		九州圏外	7,000円
×	×	九州圏内	20,000円
		九州圏外	

(2) 他職種等の参加費

	金額
他職種	7,000円
一般	7,000円
学生	1,000円

- 学生は OT 養成コース所属の方のみとします。免許取得者の学生(学部生・大学院生)の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

2. 学会参加受付期間について

学会参加事前登録は：5月2日(月)～6月10日(金)正午まで

(※参加費の入金は6月15日(水)まで)

3. お問い合わせ先

九州作業療法学会 2022 in 佐賀 大会事務局までお問い合わせください。

座長の皆さまへ

プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう宜しくお願いいたします。また発表の形式につきましては以下を参照していただき、円滑な進行となりますようご協力をお願いいたします。

発表者の皆さまへ

【利益相反の開示】

近年、多くの学会で利益相反 (Conflicts of Interest : COI) についての開示を義務づけるようになってきております。この状況に合わせ、九州作業療法学会2022でも、演題発表時に演題発表に関連する企業等との COI の有無および状態について申告することを以下に義務づけます。

【発表形式】

1. 発表方法

- 学会会期は2022年6月18日～19日ですが、演題発表は全て18日です。
- 発表はZoomを使用したオンライン発表となります。
- 発表時間は7分、質疑応答が3分です。時間厳守でお願いいたします。
- 発表では、Zoom アプリをインストールしたカメラ付きのパソコンを使用してください。タブレット・スマートフォンを用いた発表はお控えください。

2. 発表ポイント

- (一社)日本作業療法士協会会員の方は、学会参加により生涯教育基礎研修4 ポイント、また筆頭演者はさらに2ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告(25np)として登録できます。
- 演題採択後、①2022年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込、および学会参加費の支払い、③発表までをもって、本学会で発表した事とします。

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象とします。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会で厳正なる審議を行った後、学会長が最終的に決定いたします。

〈優秀演題表彰審査基準〉

- テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
- 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
- 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
- 構成や表現などが優れている。

【発表・表彰】

受賞者の表彰は閉会式で行います。

日 程 表

1日目 2022年6月18日(土) ホテルマリターレ創世 佐賀

	第1会場 ZOOM(ウェビナー)	第2会場 ZOOM(ミーティング)	第3会場 ZOOM(ミーティング)	第4会場 ZOOM(ミーティング)
9:00	9:00～9:15 開 会 式			
10:00	9:30～10:45 基調講演 協会の望む人材、多職種に 望まれること 講 師：中村 春基 オーガナイザー：山口 洋一			
11:00	10:50～11:00 次期学会長挨拶			
12:00	11:10～12:10 教育講演 1 運転と作業療法アップデート ～対象者へのより良い支援のために～ 講 師：外川 佑 座 長：崎田 誠司	11:10～12:10 セッション 1 優秀演題発表 座 長：倉富 眞	11:10～12:10 セッション 2 精神障害 座 長：阿部 数也	11:10～12:10 セッション 3 高齢期① 座 長：米田 香
13:00	13:10～14:10 教育講演 2 作業療法における精神療法的治療構 造論 ―しくみで診・守る患者のこころ― 講 師：中山 広宣 座 長：弓 誠二	13:10～14:10 セッション 4 自動車運転 座 長：竹下 宏史	13:10～14:10 セッション 5 MTDLP 座 長：佐々木 絵里	13:10～14:10 セッション 6 高齢期② 座 長：富永 美紀
15:00	14:30～16:00 シンポジウム 1 認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に 求めるもの～ シンポジスト：小池 美鈴 河合 晶子 佐々木 裕志 オーガナイザー：小松 洋平	14:30～15:30 セッション 7 脳血管障害 座 長：南 修平	14:30～15:30 セッション 8 身体障害 座 長：山科 啓太	14:30～15:30 セッション 9 地域・発達 座 長：西村 彬
16:00		15:45～16:45 セッション 10 高次脳機能障害 座 長：佐古 英樹	15:45～16:45 セッション 11 運動器疾患 座 長：兵働 弥大	15:45～16:45 セッション 12 管理運営・教育 座 長：堀 邦広

2日目 2022年6月19日(日) ホテルマリタール創世 佐賀

	第1会場 ZOOM(ウェビナー)	第2会場 ZOOM(ミーティング)	第3会場 ZOOM(ミーティング)	第4会場 ZOOM(ミーティング)
9:00	9:00～10:00 教育講演 3 教育・福祉・医療現場から 作業療法士にできること =実践から見えるこれからの支援= 講師：三澤 一登 座長：溝上 友喜	9:00～12:00 リーダー養成研修会 九州作業療法士会会長会主催 企画報告会		
10:00	10:15～12:15 シンポジウム 2 アシスティブテクノロジーを活用した 生活支援 ～リハエンジニアとOTを繋ぐ～ シンポジスト：柴田 昌知 中村 詩子 小池 保徳 オーガナイザー：淡野 義長	～九州はひとつ！ 人がつながる士会 活動を語ろう!!～		
11:00				
12:00				
13:00		12:30～14:30 MTDLP 企画 MTDLP×臨床×教育 ～ MTDLPを通して 作業療法を見える化する ことの可能性は∞～ シンポジスト：佐藤 純 瀬戸 功 オーガナイザー：小林 幸治		
14:00	13:30～14:30 eスポーツ eスポーツが社会と繋がる架け橋に ～作業療法士の役割と最新事情～ 講師：田中 栄一 座長：植田 友貴			
15:00	14:45～15:00 閉会式			

プログラム

基調講演 6月18日(土) 9:30～10:45

第1会場 (Zoom ウェビナー)

[協会の望む人材、多職種に望まれること]

オーガナイザー:

山口 洋一 一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人 静便堂 白石共立病院)

講師:

中村 春基 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

教育講演1 6月18日(土) 11:10～12:10

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長: 崎田 誠司 (伊万里有田共立病院)

運転と作業療法アップデート ～対象者へのより良い支援のために～

外川 佑 山形県立保健医療大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

教育講演2 6月18日(土) 13:10～14:10

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長: 弓 誠二 (医療法人社団 高仁会 中多久病院)

作業療法における精神療法的治療構造論 —しくみで診・守る患者のこころ—

中山 広宣 令和健康科学大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

教育講演3 6月19日(日) 9:00～10:00

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長: 溝上 友喜 (社会福祉法人 蓮花の会 理事長)

教育・福祉・医療現場から作業療法士にできること = 実践から見えるこれからの支援 =

三澤 一登 愛媛十全医療学院 作業療法学科 顧問
(一社) 日本作業療法士協会 常務理事
認定作業療法士

[認知症の人と家族を地域で支える
～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～]

オーガナイザー:

小松 洋平 学校法人永原学園 西九州大学 准教授

シンポジスト:

小池 美鈴 公益社団法人 認知症の人と家族の会 佐賀県支部 世話人代表

河合 晶子 三重県こころの健康センター

佐々木 裕志 医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 作業療法科 主任

[アシスティブテクノロジーを活用した生活支援
～リハエンジニアと OT を繋ぐ～]

オーガナイザー:

淡野 義長 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院・
在宅支援リハビリテーションセンターぎんや 認定作業療法士

シンポジスト:

柴田 昌知 一般社団法人是真会 法人本部 テクノエイド部 リーダー 兼 PACS 研究開発部

中村 詩子 北九州市立総合療育センター リハビリ工学技士

小池 保徳 佐賀県在宅生活サポートセンター 所長

座長: 植田 友貴 (西九州大学)

e スポーツが社会と繋がる架け橋に
～作業療法士の役割と最新事情～

田中 栄一 国立病院機構北海道医療センター 一般作業療法主任

[MTDLP × 臨床 × 教育
～ MTDLP を通して作業療法を見える化する事の可能性は∞～]

オーガナイザー：

小林 幸治 目白大学保健医療学部作業療法学科 教授

シンポジスト：

佐藤 純 介護老人保健施設 花水木

瀨瀬 功 医療法人社団和風会 橋本病院 病棟リーダー

九州作業療法士会会長会主催企画報告会

～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

抄 録

協会の望む人材、多職種に望まれること

中村 春基

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

平素より、日本作業療法士協会の活動にご支援を賜り心から感謝申し上げます。

この度、九州作業療法学会2022 in 佐賀「維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～」におきまして、このような機会を頂き心から感謝申し上げます。山口洋一学会長のご挨拶にありますが、まさに時代にマッチしたテーマと存じます。さて、本日は標記について話題提供を行い、その後、座長の山口洋一大会長及び会場の皆さんと、以下3つの視点で議論ができたかと存じます。

一つ目に協会の使命は、国民の健康と福祉の向上と会員の地位向上にあります。それを実現するためには、皆様一人一人の前にいらっしゃる利用者に対する作業療法の質にかかっています。従って、各人において最高の知識と技術に基づいた作業療法の実践をお願いしたい。そのための協会、士会、会員の役割について話し合えればと思います。

二つ目に、皆様の地位向上の最も身近なものに、診療報酬、介護報酬、福祉サービスの報酬があります。この中で職名が記載され、また、点数で評価されることが重要です。そのためには何が必要か？専従会長のほとんどがこのための活動ですが、これは私一人で成就することは無く、会員、士会、協会の総がかりで取り組む必要があります。ポイントは社会が作業療法を理解し、評価してもらえ体制作りです。ストラクチャー、プロセス、アウトカムの観点で議論ができたと思います。

3つ目は、多職種に望まれることについては、活動と参加の専門家としての自覚と対応と思います。OT協会員の平均年齢は35歳、経験5年目が半数を占める会員構成の中で、専門家としての言動、行動は何か？新任者であっても、作業療法士としての振る舞いができるためにはなど、多職種の視点でふり返れたらと思います。

最後に、祝辞でも述べましたが、「作業療法士は作業療法室から出なさい」、これは、45年前、兵庫県リハビリテーションセンター中央病院に入職したおり、当時副院長であられた澤村誠志先生から頂いた言葉です。この言葉の背景には、利用者中心、生活支援、人権の尊厳があると思います。作業療法に迷ったら、この3つを常にそばに置き取り組んでいただけましたらと存じます。Webでの開催ですが、多く作業療法士の皆様と出会えることを願っています。



略 歴

昭和52年(1977)3月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 卒業
昭和52年(1977)4月	兵庫県社会福祉事業団玉津福祉センター附属中央病院
昭和59年(1984)4月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院
平成6年(1994)4月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院
平成18年(2006)4月	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部部长
平成22年(2010)4月	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部部长
平成27年(2015)4月	一般社団法人日本作業療法士協会 会長(常勤役員)

受賞歴

平成17年(2005)	厚生労働大臣 表彰
-------------	-----------

一般社団法人日本作業療法士協会活動

昭和60年8月(1985)～平成1年7月	理事
平成1年8月(1989)～平成13年7月	常務理事
平成13年6月(2001)～平成21年6月	副会長
平成21年6月(2009)～現在	会長

社会的活動

一般社団法人日本作業療法士協会(会長)、チーム医療推進協議会(副代表)、リハビリテーション機能評価機構(理事)、公益財団法人国際医療技術交流財団(評議員)、一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団(評議員)、公益財団法人訪問看護財団評議委員、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会理事、公益社団法人日本脳卒中協会理事、日本訪問リハビリテーション協会(監事)等

著 書

脳卒中の在宅リハビリテーション(編集責任者)、作業療法各論・義手(リハビリテーション医学全書)、障害筋骨格系理学療法(系統理学療法)、義肢道具学(理学療法テキスト)、理学療法 MOOK 義肢装具・義肢、作業療法のとらえかた(糖尿病に対する作業療法)

運転と作業療法アップデート ～対象者へのより良い支援のために～

外川 佑

山形県立保健医療大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

自動車運転は公共交通機関が発達していない地域での移動手段として、重要な位置付けにある。特に、高齢者の運転中止や脳卒中後の運転再開が困難になった場合について、健康関連 QOL 低下や抑うつ症状発生リスクの増大など、ネガティブなアウトカムへの影響が示唆されており、作業療法士として支援する意義がある。

しかしながら、支援の重要性を指摘されている一方で、評価・支援に関するエビデンスおよびその支援の広がりとは十分とは言えない現状にある。本講演では、今後のエビデンス確立につなげられるように、脳卒中等に対するドライビングシミュレータの活用を紹介をはじめ、実車評価等での対象者へのかかわり方やフィードバックの一手法について紹介する。また、教習所や免許センターとの連携をこれまで以上に深め、対象者へのより良い支援を提供できるように新潟県での連携の実際を紹介する。本講演が参加者の皆様の明日からの臨床につながれば幸いである。



職 歴

- | | |
|---------|--|
| 2008年3月 | 山形県立保健医療大学大学院 修士課程 保健医療学専攻
作業療法学分野 修了 |
| 2008年4月 | 新潟リハビリテーション病院 入職 |
| 2013年4月 | 新潟医療福祉大学 助手 |
| 2015年4月 | 新潟医療福祉大学 助教 |
| 2019年9月 | 筑波大学大学院 博士後期課程 システム情報工学研究科
リスク工学専攻 修了 |
| 2020年4月 | 新潟医療福祉大学 講師 |
| 2022年4月 | 山形県立保健医療大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授 |

学生教育と並行して、脳卒中や高齢者の自動車運転、地域の移動手段に関する研究をメインに臨床研究を実施している。

作業療法における精神療法的治療構造論 —しくみで診・守る患者のこころ—

中山 広宣

令和健康科学大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

精神(心理)療法とは、患者と治療者との関係において言語的・非言語的交流を介して治療的に展開されるもので、病や障害を抱えた患者の心にある耐え難い悩みや不安・絶望感を受け止め、共感して支えるという関係から始まる。精神療法は、身体疾患・精神疾患を問わず、患者と治療者との関係において欠かせない技法であり、患者との治療的関係を展開するにはその治療構造を理解することが重要である。

精神療法の治療構造は外面的治療構造と内面的治療構造の2重の治療構造をもつ。外面的治療構造とは治療方針に伴う日時や頻度・治療費などの約束事(治療契約、IC)であり、内面的治療構造とは患者と治療者との心理的關係(信頼關係)である。そして、外面的治療構造と内面的治療構造は相互に影響し合う。

精神(心理)療法において、治療構造は基本的な事項として論じられるが、作業療法では、治療構造という用語に馴染みがなく、精神障害領域においても論じられることは少ない。

治療構造には、領域や疾患に対応した基本的な治療構造があるが、疾患は同じでも患者によって状況が異なるため、基本的な治療構造を踏まえて個々の患者に応じた治療構造を設定する必要がある。患者に応じた治療構造とは治療計画と同様と考えてよい。

治療構造は全ての治療行為において存在するべきもので、治療構造無くしてEBOTは成立しないと考える。具体例として手術の治療構造を説明する。手術が成功するためには、知識と技術を修得している執刀医、助手、綿密な治療方針、清潔な手術室、生命維持装置、様々なモニター、メスなど全ての構造が揃っていることが条件で、どれが欠けても成功しない。

身体障害領域の治療構造を理解するにはクリニカルパスが参考になる。クリニカルパスは時間軸にそって治療方針と方法をシステムティックに構造化(マニュアル化)して、可視化しているため、誰でも理解できてスムーズな治療展開が可能である。加えて、構造化されているため治療経過を検証しやすい。しかし、クリニカルパスは疾患に対応する基本的治療構造であるため、個々人に応じて柔軟に対応しなければならない。また、身体的治療を中心に構造化されているため、治療者は内面的治療構造(治療関係)を意識することが希薄になる。内面的治療構造を理解することで、治療関係を俯瞰して、目に見えない患者の心模様を支えることができる。

従来、精神科作業療法の治療理論は、作業活動を媒介にした治療者自身の治療的活用と作業活動自体の治療的要素に求めて、独自の治療構造を考える視点がなかった。その結果、疾病性・事例性の域を越えることができず、共有できる治療理論を展開できなかったと考える。

演者は、精神療法の治療構造を知ることで、精神科作業療法には4重の治療構造があるという独自性に気づいた。4重の治療構造とは、精神療法の2重の構造に加えて、外面的治療構造としての作業療法室と外面的治療構造にも内面的治療構造にも活用できる作業活動である。フロイトが見えない心を構造化したように、構造化することで分かりやすくなる。

講演では、4重の治療構造における作業活動の意義と患者理解について精神療法的視点から考察する。

人は、家族を始めとして小学校・中学校・高校そして社会という構造化された世界で生活しています。もし、学校という構造がなかったら、時間割りという構造がなかったなら日々どのように生活するでしょうか？私達は構造化された中で、あるいは構造化されることによって安心した生活を送ることができます。そして、目標を達成するためには自ら生活・人生を構造化します。

障害とは、解剖学的・生理学的・機能的、そして生活・人生の構造が順に壊れて、社会構造に適応できなくなった状態とも考えられます。解剖学的・生理学的構造が障害されると心身の機能的構造が障害され、それは生活の障害から人生の障害につながります。壊れた機能・壊れた生活や人生の再構造化(リハビリテーション)を支援する作業療法(士)、言い換えるなら、心身に障害を抱えた人を診る、その生活を診て、生活を支えるという作業療法(士)は、身体の奥に潜む心模様を診・守るということを忘れてはならない。

結語：演者が考える作業療法の定義

「作業療法とは、対象者に必要な日常性・普遍性(作業活動)を提供する中で、適応行動を導き、生活の構造化から人生の構造化を支援し、その質を高めるための協働作業である」



略 歴

作業療法士、医学博士

1980年(昭和55) 精神科国立病院、民間病院勤務
1990年(平成2) 国立福岡東病院附属リハビリテーション学院 厚生教官
1999年(平成11) 九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科 助教授
2004年(平成16) 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 保健医療学専攻 教授
2009年(平成21) 大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 学科長
2015年(平成27) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 特任教授
2018年(平成30) 九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科 特任教授
2022年(令和4) 令和健康科学大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授
現在に至る

受賞歴

2007年(平成19) 日本臨床神経生理学会 第9回奨励論文賞 受賞
2009年(平成21) The International Conference on Complex Medical Engineering
“The Best Paper Award” 2009.
2010年(平成22) 保健医療学学会 第1回学術集会長賞 受賞
2011年(平成23) 保健医療学学会 第2回学術集会長賞 受賞

著 書

- ・医療・福祉科学の方法-基礎と実例で示すテクニック. 医療科学社, 平成15年10月
- ・治療構造論による精神科作業療法. 青海社, 令和3年4月

教育・福祉・医療現場から作業療法士にできること = 実践から見えるこれからの支援 =

三澤 一登

愛媛十全医療学院 作業療法学科 顧問
(一社)日本作業療法士協会 常務理事
認定作業療法士

発達障害者支援法に関連し、特別支援教育制度の推進・児童福祉法・障害者総合支援法・障害者差別解消法等、障害児・者に関連する法・制度の整備が進み医療専門職としての作業療法士の活躍の場が拡大傾向にある。一方で求められているのは、数ではなく質であり、成果・効果を立証することである。さらにチームとしての多職種連携が重視され、互いの専門性を有効に活用できる体制作りでは、マネジメント・コミュニケーション等の能力も必要とされる。今回は、以下の項目について皆さんと情報を共有し、有意義な議論ができることを期待している。

1. 教育・福祉・医療の制度から見た現状と課題

子ども家庭庁の創設(2023年4月)を間近に控え、未来の子ども達のことを考える省庁連携が取られる。今後は、子ども関連施策の整備が進む一方で、住み慣れた地域で一貫した継続性のある支援体制が求められ、地域特性に応じた支援体制への関与と提言が重要である。国への提言は日本作業療法士協会が、地方自治体に対しては地域特性を活かした県作業療法士会が主体となり実践し実績を積み上げる必要がある。しかし、課題は制度上の矛盾や制約があり作業療法士が柔軟に活動できる場が確保されているとは限らないし、個々が有している能力にも差があると感じられる。

2. 作業療法士としての視点

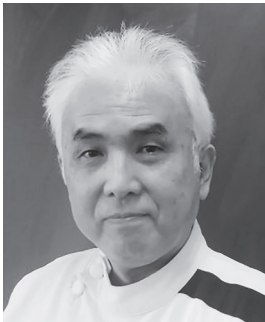
作業療法士の視点は、従来から変わっていないが国際生活機能分類(ICF)導入により共通の視点で対象者のことを多職種も語るようになり、作業療法士の視点と同化してしまい作業療法士の専門性を示す上で困難さを感じることもさえる。故に、作業療法士の専門性をより主張するには具体的な手段を提示し、結果としての成果・効果を立証していくことである。また、専門職=技術の提供だけでなく表現力・発進力等マネジメント能力を磨き、作業を用いた治療や支援の方法は作業療法士の専門性であることを改めて自覚し当事者・家族はもとより関連職種にも認知してもらう必要がある。

3. 実践から学ぶ学校教育への介入方法

当事者主体の観点から学校教育においても特別支援教育制度の推進に伴い、校内の基礎的環境整備が進み人的・物理的環境も整いつつある。一方で多様な障害特性や個人特性の見極め等具体的な支援の方法は立案できていても成果・効果が見えない中で困惑している学校の先生も多く見受けられる。学校連携においては、福祉と教育連携・医療と教育連携が推進されることで開かれた学校教育の場が確保されるべきであるが十分と言えない現状である。今回は、文部科学省の事業として県教育委員会と連携し、軽度の知的障害児の通級指導のあり方について外部専門家の立場で関わった経験を整理し報告する

4. 今後に向けて

日本作業療法士協会では、学校を理解し支援ができる作業療法士の育成を推進している。また、各県士会の担当窓口者との情報共有と県士会事業との連携が整いつつある。保健・医療・教育・福祉・労働を切れ目なく連携できるためには個々の領域で働く作業療法士の知識・技術を共有し一貫した継続性のある支援を地域単位で提供できる体制づくりに貢献できる議論が必要で当日を楽しみにしている。



学 歴

1984年3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業

職 歴

1984年4月 愛媛十全医療学院 教務課 入職

2022年2月 現在に至る

社会的貢献

(一社)日本作業療法士協会常務理事 教育部長

(一社)日本発達障害ネットワーク 副理事長

(一社)日本リハビリテーション病院・施設協会 障害児・者支援検討委員会委員

著書：共著

- 図解 作業療法技術ガイド 第4版 文光堂
- 作業療法士プロフェッショナル・ガイド 文光堂
- 作業療法学全書 作業療法概論 改訂第3版 協同医書出版社
- 作業療法学全書 地域作業療法学 改訂第3版 協同医書出版社

その他

国土交通省 バリアフリー法関連委員会 委員

(公社)愛媛県作業療法士会 監事

オーガナイザー

認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～

小松 洋平

学校法人永原学園 西九州大学 准教授

今回のシンポジウムでは3人のシンポジストにご登壇して頂きます。

シンポジウムの目的は、認知症ケアの専門家としての作業療法士の役割。さらに共生社会に向けて、認知症の人がその人らしく生活できる地域での取り組みについて、作業療法士として・その職能団体としてできることを模索し、議論したいと思います。

3人のシンポジストの抄録やこれまでのご活躍の実績を拝見すると、共通する作業療法士へのエールは以下ではないでしょうか。

- ① 認知症の人が出来る事を奪わず、出来る事を見つけていく
- ② 地域共生社会に向けて、既成概念に縛られず、作業療法士が本当に必要とされている事にどのようなしたら出来るか考え、出来る事からトライしていく
- ③ 認知症の症状も包み込むコミュニケーションスキルをもつ

これらについて、シンポジウムで深掘りしたいと思います。

そして、このシンポジウムが「認知症。大丈夫です。地域にも、施設・病院にも作業療法士がいるじゃないか」といえる佐賀県になるためのきっかけになればと思います。



職 歴

1999年～ 国立肥前療養所(現 国立病院機構肥前精神医療センター)
2008年～ 西九州大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科
他に、障害者就労支援事業所や障害者のグループホーム、介護予防事業等にも従事

社会的活動

日本作業療法士協会 制度対策部 障害保健福祉対策班、ほか
吉野ヶ里町 社会福祉協議会 理事
(介護予防事業、認知症見守りたい、温かい声かけ訓練事業、サロン事業等を担当)
社会福祉法人 福祉の里かんざき 理事
NPO 法人 ふれあいねっとサガンズ 理事長
SST 普及協会 評議員

資 格

作業療法士
精神保健福祉士
臨床心理学博士

研究テーマ

健康行動の動機づけに関する研究

認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～

小池 美鈴

公益社団法人 認知症の人と家族の会
佐賀県支部 世話人代表

私は、ケアマネジャーとして多くの認知症のご本人とご家族の支援に携わってきました。印象的な事例を紹介します。

愛さん(仮名)は、夫を亡くしてから、徐々に物忘れが目立ち始めたお母さんと二人暮らしで、平日は朝から夕方まで仕事をされています。お母さんは、誰かの見守りがあれば、それまでの生活がつづけられる初期のころ、調理をしながら、水の出しっぱなしや火の消し忘れが続き、愛さんは、やむなく元栓を閉めて出勤することになります。冷蔵庫に卵が何パックもたまっている、時々迷子になって近所の人のお世話になる、ついには警察に保護されるとなると、玄関に中から開けられない鍵がつけられます。こうして、「要支援」の時期はあっという間に過ぎて、「要介護」状態を招いてしまいます。

愛さんのお母さんのように、見守りや生活の工夫が必要な時期こそ、手厚い支援が重要です。認知症カフェ(カフェ・オレンジ：以下カフェ)には、介護認定を受ける前の方や介護サービスを利用する前の方が、多く相談にお見えになります。カフェを運営しているスタッフの多くは介護を経験した家族です。親や配偶者など、身近な家族を介護してきた経験から、家族の立場で相談者の気持ちに共感したり、介護のコツをお伝えしたりすることは得意ですが、専門的なことは分かりません。

そんな時、認知症の症状を補う生活の工夫や道具などについて、作業療法士さんから助言していただくことで、「やってみよう」「もしかしたら、うまくいくかも」という風に、思考の転換ができ、主体的な生活が取り戻されていくことがあります。例えば、薬の飲み忘れが増えて困っているという相談に対して、作業療法士さんから、飲み忘れの原因は日付や時間が分からないことが原因かもしれないので、日時が画面に表示されるデジタル時計に替えてみることをご提案いただきました。その方は、その後、薬に表示されている日付と朝夕の時間が一致して、飲み忘れがなくなったそうです。私たちも、とても勉強になりました。

また、私たちは、毎月第3日曜日の10時から15時まで、カフェを開催しており、佐賀県作業療法士会から、毎回、輪番で作業療法士さんを、派遣していただいています。作業療法士さんには、相談にのっていただくだけでなく、15分～30分程度、介護予防や認知症の予防につながるような、簡単な運動やゲームを教えていただいています。身体を動かしたり、頭で考えながら手足や指の動きを連動させたりしますが、若い人でも失敗したりして、思わず笑い声があがります。教えていただいた運動を家でも続けている熱心な方もいます。現在は、コロナ禍で、人数や時間を縮小して開催していますが、カフェの運営においても、作業療法士の皆さまのご協力が欠かせないものとなっています。

カフェ以外にも、全国研修会や九州ブロック会議、若年性認知症の本人交流会など、様々な活動においてご協力いただきました。これからも、認知症ケアの専門家として、いろいろな助言をいただきながら、認知症の人や家族も幸せに暮らせる社会づくりに努めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



学 歴

1981年 龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 卒業

職 歴

1983年2月～1996年1月 重症心身障害児施設 砂子療育園
2001年2月～2002年6月 せふり保育園
2002年6月～2004年4月 特別養護老人ホーム なごみ荘
2004年12月～2020年12月 (有)あしたば ケアサービスゆうゆう
2021年12月～ NPO 法人 たすけあい佐賀

資 格

社会福祉主事任用
保育士
介護支援専門員
児童発達支援サービス 管理責任者

その他

佐賀県 高齢者保健福祉推進委員
佐賀県 認知症疾患医療連携協議会 委員

認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～

河合 晶子

三重県こころの健康センター

三重県での地域における認知症支援の取り組み

私は行政に所属する作業療法士で、認知症施策を担当し、県内における認知症支援の推進に携わっています。

従来、認知症をはじめとした高齢者の支援は、主に医療保険・介護保険の「共助」の枠において、専門職による医療、在宅サービス、施設サービスの提供が行われていました。

しかし今、高齢福祉施策の基盤となる「地域包括ケアシステム」および令和元年6月に制定された「認知症施策推進大綱」に基づき、「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり」「施設入所型から地域完結型」を目指して、「自助」・「互助」・「共助」・「公助」を総動員した沢山の取組が立ち上がっています。特に地域においては、認知症の理解に対する普及啓発（サポーター養成）が進められ、介護予防事業、認知症カフェ、家族の集い、ピアサポートの会、チームオレンジなど、インフォーマルな資源を含む「認知症を持つ人とそのご家族を支える場」が数多く創設されつつあります。

さらに、社会における「認知症を持つ人」の位置づけも大きく変化しています。多くの当事者から、「Nothing us without us (私達のことを、私達なしで決めないで)」「enable us (私達の可能性を支援してほしい)」「認知症があっても、役割や楽しみを持ち続けたい」というメッセージが発信されました。認知症を持つ人とそのご家族は「支援される側の存在」ではなく、その持てる力を最大限に活かし、認知症とともに自分らしく生きることができる社会「認知症フレンドリー社会」を創るためのパートナーとして、活躍する時代となりました。行政でまちづくりの仕事をしていると、より豊かな社会を創るために、私達は「先に認知症になった先輩方とご家族」に支援されている、と感じます。

このような流れの中で、私たち専門職に求められる役割はどのように変化しているのでしょうか。また、その役割を担うために有効なアクション、身に着けるべきスキルはどのようなものでしょうか。認知症を持つ人とそのご家族のニーズは、1人1人異なり、またそのステージ、環境に応じて刻々と変化します。地域の中に飛び込み、生活を知り、資源を知り、真のニーズを聴く、見る場を持つこと。生活の中での困りごとに加え、生活を豊かにする大切な作業を継続するための策を共に考えること。それが地域の中で叶えられていくように、地域の資源を支援し、まちづくりに携わること。作業療法士の視点は多くの場で発揮できると感じています。

認知症を持つ人、ご家族、地域の多様な主体、行政、そして私達専門職…それぞれがエンパワメントされて、共に支え合う地域を創るために、何ができるだろうか。三重県における地域の認知症支援の取組をご紹介しますながら、皆で考える時間にしたいと思っています。



略 歴

作業療法士、認知症ケア専門士。

2002年 国際医療福祉大学作業療法学科にて資格取得後、株式会社メディアケア・リハビリに入職。高齢者を中心とした在宅訪問、デイケア、特養、市の保健事業等のリハビリテーション業務に従事する。

2007年～ 三重県立こころの医療センターに勤務。精神科病院での外来・入院作業療法の中で、認知症専門治療病棟を担当し、中等度～重度の認知症の人のリハビリテーション業務に従事。認知症リハビリテーションの推進や、地域型認知症疾患医療センターの取組に携わる。医療のみでなくまちづくりを目指した包括的な支援にやりがいを感じ、地域の認知症カフェ・予防事業などに参加。

2018年～ 三重県医療保健部長寿介護課地域包括ケア推進班で勤務。在宅医療、介護予防、認知症事業を担当する。

2022年～ 現職の三重県こころの健康センターで勤務。

所属機関、取組紹介

- 日本作業療法士協会 制度対策部 認知症班 委員
- 三重県作業療法士会 地域リハビリテーション部 認知症とともに班 委員
- 三重県オレンジチューター
- 鳥羽市地域ケア会議アドバイザー
- RCRD (認知症のための研究論文レビューサークル)

著 書

- 日本作業療法士協会 認知症評価の手引き 精神科認知症治療病棟
- Evidence based で考える認知症のリハビリテーション 精神科認知症治療病棟

認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～

佐々木 裕志

医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 作業療法科 主任

佐賀県作業療法士会の認知症支援における取組から考える「維遂」

現在日本は、世界でも稀にみる超高齢社会の中にある。2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になると推定されている。高齢社会白書によると、令和2年10月時点で28.8%という高齢化率が、2040年には35.3%まで上昇すると見込まれている。佐賀県は既に30.42%と全国を上回って推移し、中には40%を超えている地域もある。そのため近年では、医療介護ニーズの増加、社会保障費の問題、支え手の減少(人材不足)など、様々な社会問題に対し地域包括ケアシステムの構築、ならびに地域共生社会の実現に向けた取り組みが進められていることをご承知の通りである。中でも、1つの大きな課題が認知症である。2025年には高齢者人口の20%が認知症になると推計されている。認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなども含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

わが国では、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく、「新オレンジプラン」から引き継ぐ形で「共生」と「予防」を車の両輪とした「認知症施策推進大綱」が進められている。また、作業療法士にとっても領域や分野を問わず認知症の当事者と関わる機会が増え、我々作業療法士に対する期待は高まっていると言える。

認知症当事者に対するリハビリテーションは、実際に生活する場面を念頭に置きつつ、各人が有する認知機能等の能力を見極め、残存機能を最大限に活かしながら日常生活を継続できるようにすることが重要である。その対象は生活障害であり、困りごとやできないことだけではなく、できる事やできていることにも目を向け、対象者のやりたいことを切り口に人的・物理的環境を調整するなど、作業療法士の能力をフル活用して目の前の「人」を支えている。その中でも、コミュニケーション力(共感的理解、相手の思いを引き出す力、“なぜ”を考え相手に伝える力)、相互に連携しながら共に支える意識は、日々の臨床と合わせて地域の中ではより大切である。

昨年度は、日本作業療法士協会第三次作業療法5ヵ年戦略「地域包括ケアシステムへの寄与～作業療法5・5計画～」の最終年度であった。今回のシンポジウムでは、認知症の人と家族の会との連携、及び佐賀県認知症支援委員会の取り組みをお伝えしたい。認知症支援委員会は専門職同士の連携、人材育成、現状把握、繋がる仕組み作りなど様々な取り組みを通して地域で認知症の当事者を支える土台作りに取り組んできた。これまでの取り組みから、筆者は当事者やその家族、並びに関わる専門職間との時間の共有と連携が最も重要であり、繋がり・支える時にこそ作業療法士の存在がマストだと考えている。

今回のシンポジウムは、繋ぎ支え(維)成し遂げる(遂)ために我々が何をすべきか、皆様と一緒に今一度考えられる有意義な時間としたい。



学 歴

2004年 医療福祉専門学校 緑生館 作業療法学科 卒業

職 歴

2004年～ 医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院 入職
2006年～ 同法人 医療法人財団 友朋会 ものわすれメンタルクリニック
通所リハビリテーションデイケア 勤務
2016年～ 医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院
委託事業 認知症初期集中支援推進事業 チーム員専従
同病院 認知症カフェ運営
2021年～ 同病院 棟外療法(芸術療法・クラフト)担当
同病院 認知症治療棟担当

資 格

作業療法士

その他・社会的活動

一般社団法人 佐賀県作業療法士会 理事(事業局副局長)
一般社団法人 佐賀県作業療法士会 事業局 地域包括ケア推進部
認知症支援委員会 委員長
佐賀県認知症作業療法推進員

オーガナイザー

アシティブテクノロジーを活用した生活支援 ～リハエンジニアと OT を繋ぐ～

淡野 義長

一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院・
在宅支援リハビリテーションセンターぎんや
認定作業療法士

OT ではその対象分野に関係なく、対象者の生活再建において環境へのはたらきかけは必須となっています。生体とモノや環境との関係を理解しつつ、その対応を考えないと結果に結びつかない事を経験する OT は少なくないと思います。人に軸足をおく OT の知恵と知識だけだと思考の広がりがないと感じることも少なくありません。周囲の人に頼っていた事が、人口構造の変化もあり、限界を感じるが増えてきました。

一方で、プログラミングや制御など、工学の分野では目を見張るような発展があります。オリンピックでも最先端の技術が披露され、国の制度でもこれらの分野を推進していることが窺えます。人手を補う、人の代わりに使うロボットから、身近な生活パートナーとしてのロボットに変わってきています。

これら2つのジャンルのものが融合すると、もっと人にやさしく、快適な生活に繋がっていく事が期待できます。しかし周囲を見回してみると、福祉工学の専門家との接点は意外と少ないものです。個人レベルではなかなか人間関係を拡大することは難しいので、県士会や協会などの職能団体がその役目を担っていると思います。日本作業療法士協会の生活環境支援推進室が所管する「福祉用具相談支援システム」では県単位で担当者を置いています。その担当者の背景には全国のシステムの担当者が繋がっています。その中には歴史あるリハセンターで、エンジニアが在籍している事が複数ありますので、間接的にでもアクセスする事が可能です。さらに関連団体では「日本リハビリテーション工学協会」があります。ここにはリハに関連するエンジニアの方が多く在籍されています。OT の会員も少なくないので比較的アクセスしやすいところの1つです。

基礎分野が違う人たちがお互いを知り、お互いに近づいて協働するという事は、意図的に行動しないと実現しません。今回は現場での協働例を知る事により、OT のモノ・環境支援の拡大の可能性を皆さんと考えていきたいと思っています。よりクリエイティブな現実への可能性が上がるようにみんなで考える一助となればと思います。



学歴・学位

1988年 福井医療技術専門学校(現:福井医療大学)卒業

職歴

1988年4月 農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
1993年4月 香南リハビリテーション大学校
(現:学校法人土佐リハ学院 土佐リハビリテーションカレッジ)
2006年4月 社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院
2010年5月 (一社)是真会 長崎リハビリテーション病院
現在に至る

資格

認定作業療法士
福祉住環境コーディネーター2級(東京商工会議所)
福祉用具プランナー/リフトリーダー(テクノエイド協会)
サーティファイドリスクマネージャー(リスクマネジメント協会)
腰痛予防労働安全衛生インストラクター(中央労働災害防止協会)
VDT作業労働安全衛生インストラクター(中央労働災害防止協会)

著者など

- 作業療法全書 第11巻, 日常生活活動, 協同医書出版, 分担執筆(脳血管障害) 2009年
- 災害リハビリテーション標準テキスト, 医歯薬出版, 分担執筆, 2018年

アシスティブテクノロジーを活用した生活支援 ～リハエンジニアと OT を繋ぐ～

柴田 昌知

一般社団法人是真会 法人本部
テクノエイド部 リーダー 兼 PACS 研究開発部

はじめに

一般社団法人是真会は、長崎市中心部に位置し、143床全て回復期リハビリテーション病床の長崎リハビリテーション病院(以下、当院)と、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導事業所を有する在宅支援リハビリテーションセンター「ぎんや」を有しています。そして、法人内にテクノエイド部という部門があり、エンジニアが在籍しています。テクノエイド部は法人内の福祉用具等の管理・運営を担っており、作業療法士を含む他の職種と協働し患者・利用者の支援を行っています。

今回は、当院での活動を紹介し、エンジニアとの協働について報告します。

1. 当院での福祉用具支援の考え方

当院に入院する患者は、脳血管疾患が7割、次いで整形疾患が2割程度を占めます。回復期という時期では本人の自立支援と生活の再構築が重視されます。それが効果的・効率的になされるためには、専門職各々の固有の知識や技術と共に用具・環境の要素は外せません。本人の回復状況に沿った人的支援と用具・環境支援がマッチすることが必要となります。同時に家族等介護者に対する支援も行います。このように、人ともとの環境のバランスを常に意識して支援するように心がけており、テクノエイド部も他の職種と一緒に福祉用具選定等に関わり、患者の回復を支えています。

2. 一人一人にあった福祉用具を提供するためのシステム

当院には必要な場所ですぐ使用できるよう、病棟やアクティブホール(訓練室)に様々な福祉用具を配備しています。また、福祉用具を管理保管する保管庫も有し、法人内に約1,000点にも及ぶ福祉用具を保有しています。しかし、それでも対応できない場合も多くあり、提携事業者より福祉用具をレンタルする仕組みも運用しています。

3. 福祉用具に関する教育や管理

福祉用具を患者に適応し生活で活かしていくには、扱う職員の福祉用具に関する錬度を上げる必要があります。テクノエイド部では、資料作成や研修等を行い、職員の知識と技術の下支えを行っています。また、福祉用具の管理に関しても管理ソフトを作成する等サポートを行っています。

4. 既製品では対応できない患者・利用者への対応

テクノエイド部では既存の福祉用具では対応できないケースに関し、製品の組み合わせや開発等も行っています。その場合、作業療法士等からの機能評価をもとに、開発に必要な機能やデザインを提供しています。

おわりに

当法人はまだまだ十数年の歴史であり、テクノエイド部という珍しい組織を有しているため、福祉用具等に関する様々な情報を集めて発信すること、福祉用具を知り使いこなすこと、必要なものづくりを行うことなど、作業療法士とエンジニアどちらがどの程度担うのか試行錯誤を重ねているところです。時代はどんどん進み、多様な福祉用具や一般製品がこれからも多く出回っていきます。どのような人でも住み慣れた地域でいきいきとその人らしく、生活できる支援の在り方をこれからも考えていきます。



学歴・学位

2005年	長崎大学工学部 機械システム工学科 卒業
2007年	長崎大学大学院生産科学研究科 博士前記課程 機械システム工学専攻 修了
2016年	長崎大学大学院生産科学研究科 博士後期課程 システム科学専攻 単位取得後退学
2017年	長崎大学にて博士(工学)を取得

職歴

2007年4月	一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 入職
2010年6月	一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 テクノエイド部
2014年4月	一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 テクノエイド部 リーダー
2019年4月	一般社団法人是真会 法人本部 テクノエイド部 リーダー 兼 PACS 研究開発部

資格

福祉用具プランナー
福祉用具専門相談員
2級福祉住環境コーディネーター
リフトインストラクター中級
リフトリーダー

アシティブテクノロジーを活用した生活支援 ～リハエンジニアと OT を繋ぐ～

中村 詩子

北九州市立総合療育センター リハビリ工学技士

北九州市立総合療育センター(以下、当センターとする)は、障害のある方々の療育と医療の中核施設です。乳幼児期の早期療育から成人期の機能維持・健康管理に至るまで、医師をはじめ、医療と福祉の専門職が治療(手術を含む)や療育のご相談に応じています。

当センターは、前身の足立学園が1965年に設立されてから今年で57年目になります。1978年に当センターへ発展していく過程に、多職種によるリハビリテーション医療のチームづくりをする一環として、1979年にリハビリ工学技士1名繁成剛氏が配属されました。その時期は、アメリカでもリハビリテーション工学協会(RESNA)が設置され、日本ではリハビリ工学部門がリハセンターに併設され始めた頃であり、子どもを対象にした施設では日本初の「リハビリ工学技士」の配置となりました。その当時、障害のある子どもの福祉用具の商品はほとんどなく、リハビリ工学技士は、子どもたち一人ひとりに合わせたフルオーダー製作を地元企業と試行錯誤し、個別のニーズと療育の思想を形にしていきました。それらは商品化され、書籍「障害児のためのテクノエイド」にまとめられ、当時の日本の障害児者の福祉用具製作者のバイブルとなりました。

1999年に私が入職した頃は、子どもの福祉用具の商品が増え、選択できるようになり始めてきた時期でした。一方で、障害のある子どもたちは一人ひとり状況が異なるため、実物の商品比較や試乗をしないと、選ぶことが難しいです。そこで、2001年から西日本国際福祉機器展での企画展「こどものひろば」を提案し、子どもの福祉用具を見て試乗できる機会を作りました。やがて、一人ひとりに合わせてフレーム機器の選定をし、身体支持部はオーダー製作することが主流になり、必要に応じてフルオーダー製作を併用するようになってきました。

現在は、より快適に楽しく暮らす道具の研究開発にも取り組んでいます。たとえば、新しいニーズの取り組みとして、医療的ケアが必要な方が安全安心に入浴できる補助具の研究開発をしています。また、それまで取り組めていなかったこと、例えば、圧測定を用いたクッションの選定や姿勢保持を行い、快不快を言葉にしにくい重症児者の方より高い快適性の向上に心がけています。そのほか今まで開発してきたものは、強化ダンボール製の乳幼児椅子のiトライチェア、遊具かいじゅうのたまご、小児用歩行器 UFO ウォーカー、モジュール型歩行器ストライダー、簡易型車いすサッカー用フットガード TANK などがあります。職場外の活動では、ドイツ・北欧4カ国の姿勢保持及び機器について、福祉機器メーカー・臨床現場を3ヶ月間にわたり自主研修したり、アジアシーティングプロジェクトとしてタイへボランティア活動したり、海外での活動などにも参加しています。

今回のテーマである OT との協働については、補装具の製作では困難事例を一緒に取り組んだり、遊具や教材のアイデアを形にしたり、評価器具の試作をしたりなどしています。また、発達障害児の住環境の工夫についても、発達段階にあることを念頭に慎重に安全安心な暮らしを OT と提案していくこともあります。今後は重症心身障害児者の方より快適なベッドサイドでの活動や生活の質の向上について、OT の専門技術とアイデアをもとに協働で取り組んでいきたいと考えています。



学歴・学位

1999年 九州芸術工科大学(現・九州大学)芸術工学部 工業設計学科 卒業

職歴

1999年4月～ 北九州市立総合療育センター リハビリ工学技士

著者など

- 小児から高齢者までの姿勢保持, 工学的視点を臨床に生かす第2版, 日本リハビリテーション工学協会, SIG 姿勢保持, 医学書院, 2012
- イラストでわかるスペシャルシーティング—姿勢評価アプローチ—, ジーン・アン ソラーズ著/上杉雅之翻訳, 医歯薬出版, 2012
- 理系生活—先輩理系人からのキャリアアドバイス—, 日本セラミックス協会編, 学事出版, 2015
- 強化段ボールで作るテクノエイド, はる書房, 2018

その他

日本リハビリテーション工学協会 理事、SIG 姿勢保持 役員

日本デザイン学会 会員

北九州市おもちゃライブラリー 館員

PFC COSMO 北九州 電動車椅子サッカーアシスタントエンジニア

アシスティブテクノロジーを活用した生活支援 ～リハエンジニアと OT を繋ぐ～

小池 保徳

佐賀県在宅生活サポートセンター 所長

佐賀県在宅生活サポートセンターの紹介

佐賀県在宅生活サポートセンターは、福祉用具、住宅改修等に関する情報の提供、介護の実習、福祉用具を利用した体験学習等を通じて、高齢者などの在宅生活における自立の支援並びに介護に関する県民の知識及び技術の向上を図り、もって県民の福祉の増進に資することを目的としています。

平成25年4月1日より作業療法・介護福祉佐賀県在宅サポートセンター共同事業体として、介護福祉士会と作業療法士会の共同運営として佐賀県より指定管理として指名を受け運営を行っています。

佐賀県在宅生活サポートセンターの役割や取組について、紹介させていただきます。



学歴・学位

1990年 熊本リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業

職 歴

1990年3月～ 医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院

2018年6月～ 佐賀県在宅生活サポートセンター

資 格

作業療法士

その他

佐賀県作業療法士会 副会長

e スポーツが社会と繋がる架け橋に ～作業療法士の役割と最新事情～

田中 栄一

国立病院機構北海道医療センター 一般作業療法主任

障がいのある方や高齢の方を相手に競い合った経験があるでしょうか？

普段は感じられない思いがけない発見が、試合から感じられます。スポーツ競技には、こうした単純な勝ち負けでは終わらない、選手や参加するすべての人をつなぐ面白さがあるように思います。スポーツがもつ面白さを引き継ぎ、新しいスポーツ競技の形を提案しているのが e スポーツです。

野球やサッカーといったリアルスポーツは、競技を行う運動場や体育館など一定の広さのスペースが必要になりますが、ICT を背景にしている e スポーツでは、ゲーム機器とモニタと通信環境があれば、どこにいても試合が始められ、住む地域が異なる離れた人同士の対戦も可能になりました。e スポーツは、性別・体格・年齢、そして障害の有無や、障害の種類や程度で、カテゴリ分けされていた隔たりを取り除くことが可能です。

入院生活の脊髄性筋萎縮症の A さんは、チームメイトとの練習を毎日欠かしません。試合前には対戦相手の特徴を入念に調べ、試合中は、ボイスチャットでチームメイトに的確に指示を飛ばし、試合終了後はもちろん、反省会で次回につなげます。一般企業の e スポーツチームから交流試合を申し込まれることも度々です。最近では、高校 e スポーツ部のコーチを引き受けるようになりました。彼は ADL 全介助ですが、自分にあったデバイスを手に入れることで e スポーツを楽しんでいます。「ゲームがあったから友達ができ、入院していたら出会えなかった人とも、大勢知り合いになれた。」と振り返ります。

こうした障がいのある方の幅広い層の人たちとの出会いを可能にするために、作業療法士として関わるべき課題があります。それは、自分にあったプレイ環境が整っていないために、パフォーマンスを発揮できていないことや、無理なトレーニング方法や、間違った用具の使い方、身体への負荷がかかっている場合への対応です。

これまで、画面を覗き込むような体が崩れた姿勢で熱中してテレビゲームをしていた経験はないでしょうか？この姿勢を長く続けることで、頸部から肩にかけての疲労が痛みや怪我に繋がります。遊びといっても、疲労を残すのはおすすめてできません。競技性が高くなるほど、練習時間が長くなるのは、リアルスポーツと変わりません。怪我の予防のためにも、楽な姿勢がとれて、画面の高さが顔の正面にあり、操作デバイスが無理のない手の位置であるようにプレイ環境の見直しが必要です。

最近では、重い運動障害のある方でも、競技参加が可能な市販デバイスが入手できるようになりました。しかし、まだまだこうした情報がユーザーに届いていないのが現状で、自分には無理とはじめから諦めているユーザも多くいる状態です。e スポーツで社会とのつながりや、社会的影響をもたらすためにも、実際に体験でき、自分にあった環境構築の支援が必要です。

ひらけごま <https://www.hirake55.com/>



略 歴

- 1993年 弘前大学医療技術短期大学部 作業療法学科 卒業
- 1993年 北海道勤労者医療協会
- 1998年 国立療養所八雲病院
- 2020年 北海道医療センター
小児神経筋疾患に対して、支援機器を用いた活動サポートを行っている。
- 2020年 一般社団法人 ユニバーサルeスポーツネットワーク 代表理事
身体障害でeスポーツに参加出来ない方へのサポートを行っている。

オーガナイザー

MTDLP × 臨床 × 教育

～ MTDLP を通して作業療法を見える化することの可能性は∞～

小林 幸治

目白大学保健医療学部作業療法学科 教授

このシンポジウムでは、作業療法を可視化して対象者が健康で Wellbeing になる方向性を見通しながら臨床を実践することと学生や新人を教育することはクロスオーバーして作業療法を活性化することにつながるという事を具体的に示す試みを行いたい。

臨床現場の作業療法士にとって、初学者である作業療法学生が作業療法臨床を学ぶ過程を知るのには臨床実習の場である。学生は実際どのように経験し学んでいるようにみえるだろうか。また、2020年から新型コロナウイルスの感染拡大により、新人 OT も実習が十分できないまま部門の一員となることも多く、作業療法のイメージを持っていない段階で現場教育を行う必要も出ている。臨床を知らない立場の学生や新人 OT が作業療法臨床を学ぶには、対象者からのニーズの聞き取りや、この対象者に作業療法を行う際に求められるリスク管理などを1つ1つ分解して、見学や解説を受けて得た知識を、次に実際にどう使うかを話し合ったり、実際に行ってみることが有用となる。また、教育を行う側の実習指導者や教員は、基本的な作業療法を行うプロセスがどのようなものか、ということフレームワーク(枠組み)として活用できるようにしておく必要がある。

最近、主に回復期リハ病院の作業療法のあり方について、現場の OT と意見交換をする機会を多く持つようになった。その中で、新人や若手に業務ができるようになるための現場教育は行っているが、目標設定や支援計画を立案する、チーム医療の中で OT の課題認識について説明するといった現場教育のあり方に課題を感じているとのことだった。対象者にとって重要となる生活行為を支援計画の中心に設定し、マネジメントしていくスキルや考え方が十分に育っていないという。これは生活行為向上マネジメント(MTDLP)によって解決できるのではないだろうか。

筆者は、MTDLP を用いたデイサービスや老健での老人保健健康増進等事業への研究参加、基礎研修や実践研修の講師、大学での授業、地域ケア会議での助言者経験、他職種や行政への生活行為向上支援研修、教育ツールとしての MTDLP モデルの考案など、相当回数 MTDLP を考えてきたと思うが、この事から言えるのは、作業療法がよく見えるようになった、ということである。

本日は、こうした前置きを少し参加者と共有した上で、活用しやすい実践的な MTDLP の形を2人の MTDLP 指導者の先生に示して頂こうと思う。そして、作業療法を活性化(魅せる)というあり方を考えてみたい。MTDLP という入れ物は実に使い勝手がいいのである。



略 歴

- 早稲田大学第一文学部 卒業
- 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 卒業
- 横浜市立脳血管医療センター(現：横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)、医療法人康心会ふれあい町田ホスピタル(リハ科長)などで臨床を経験
- 筑波大学大学院教育学研究科
カウンセリング専攻リハビリテーションコース 修了
- 首都大学東京大学院人間健康科学研究科 博士後期課程修了
現在、目白大学保健医療学部作業療法学科 教授
- 教育の傍ら、訪問看護ステーションでの非常勤、知的障害者入所施設でのリハビリアドバイザー
- 日本作業療法士協会養成教育委員会 MTDLP 教育推進班長
- 日本作業療法教育学会 理事
- クリニカル・クラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会 理事
- 埼玉県作業療法士会 地域包括ケア推進部員
- NPO 学びあい 理事
- 認知症ケア専門士
- 福祉用具プランナー 管理指導者
- 終末期ケア専門士

実践現場における 日常的な MTDLP の活用と可能性について

佐藤 純

介護老人保健施設 花水木

普及が進んで身近になってきている生活行為向上マネジメント(以下 MTDLP)。しかしながら、「臨床場面で MTDLP を実践したい」あるいは「MTDLP を用いて臨床実習指導をしたい」と思っているものの、様々な不安や理由があって踏み切れずにいる人も多いのではないのでしょうか。この「初めて」の壁を、既に MTDLP を実践している人たちは、どのようにして乗り越えてきたのか、私の周囲にいる自称“M ラー”達からの情報を紹介したいと思います。

さらに、自称“M ラー”達は MTDLP の実践経験を重ねていく中で、「対象者と自分と現場にとって“いい塩梅”の MTDLP 活用法」を見出してきました。事例報告登録を目指したフル装備の MTDLP 実践は、私たち作業療法士が目指すべき目標ではありますが、日常的な活用の良さもあるのです。その中でも、自分の思考過程を整理したりそれを人に伝えたりといった、作業療法を見える化させた活用法は、実習生そして新人教育場面で分かりやすく作業療法を伝えるのに有効な手段だと実感しています。目の前の実践を、作業療法プロセスも含めた作業療法の文脈として伝え、さらに、対象者を主体に据えたチームアプローチとして感じてもらうために、MTDLP をどのように活用しているのかを紹介したいと思います。

私はいま、「MTDLP を実践しやすい現場作り」にも挑戦しています。一朝一夕とは行かない手探りの取り組みではありますが、その進捗とともに私の想いについても触れられればと思います。



略 歴

- 1993年 国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院
作業療法学科 卒業
- 1993年～ 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 勤務
- 2001年～ 医療法人社団欣助会 介護老人保健施設花水木 機能訓練室 勤務

〈資 格〉

認定作業療法士
MTDLP 指導者
介護支援専門員

〈社会活動〉

NPO 法人 焔めぐ返り花 副代表理事
ABD 協会 認定ファシリテーター

〈その他〉

日本作業療法士協会養成教育委員会 MTDLP 教育推進班 班員

MTDLP できることから、実践してみましよう！

瀨 功

医療法人社団和風会 橋本病院 病棟リーダー

作業療法の過程は、情報収集、インテーク、アセスメント、課題分析、工程分析、プランニング、実行、モニタリングなど、あらゆることを考慮し臨床が進められていく。そのことから MTDLP を活用すると、作業療法士(以下 OT)が思い描いている作業療法を整理することができるため、臨床において漏れなく実践できるのではないかと考える。OT が、クライアント(以下 CL)や家族に対し作業療法のことを説明する場合も、MTDLP シートは作業療法をわかりやすく文字に起こすため説明しやすい。最近では、臨床実習指導者講習会が開催され、実習生を指導するために MTDLP を使うことが推奨されている。今後、臨床で活用すべきツールとなっていくため、いよいよ実践していかねばいけない。OT が無理のない方法で MTDLP を活用し、CL により良い作業療法を提供できればと思う。

今回、臨床場面での MTDLP の実践例、職場での使い方、臨床実習指導における MTDLP 教育、などご紹介できればと思っている。シンポジウムでは、OT がこれから MTDLP の実践を推進していくための参考になるようなディスカッションができればと思い楽しみにしている。



略 歴

2005年 四国リハビリテーション学院(現 四国医療専門学校)卒業
2005年4月～ 医療法人社団和風会 橋本病院

〈資 格〉

認定作業療法士
MTDLP 指導者

〈その他〉

香川県作業療法士会 理事兼学術部長
日本作業療法士協会養成教育委員会 MTDLP 教育推進班 班員

九州作業療法士会会長主催企画報告会

～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

○これまでの経緯

九州作業療法士会会長会は、九州の各士会会員の資質向上を図ることを目的として、学会やMTDLP研修などの企画運営を行ってきました。

そのひとつであるリーダー養成研修会は2008年より、コーチングスキルを高める研修からスタートし、近年では大規模災害支援をテーマにするなど、各士会団体や臨床組織をリードする人材養成に取り組んできました。

○今回の企画の流れ

リーダー養成研修会を継続する中で、研修会に参加した会員が士会内組織に増加していききましたが、その効果は見え辛い状況でした。それは県士会で取り組まなければならない事案が増加し、加えて各県よりの研修会への派遣が毎年1名であった為に組織化に繋がらなかったからだと考えられました。

平成30年度の第3回および令和元年第1回の士会長会会議で、当研修会の今後の方向性についての検討を行いました。この中で、士会活動の活性化が図れた事例の報告や、市町村単位で細かな対応を行うための「小さな県士会」を組織していく必要性の報告などがなされました。こういった好事例や課題について、各士会の情報交換が活発に行われ、その成果をそれぞれの士会活動に活かしていくことでリーダー養成につなげていけるのではないかという結論になりました。

研修会の方向性としては以下のような形を考えました。

- 同じテーマに3年間取組み、九州作業療法学会で成果の報告を行う。
- 研修会へは毎年各県から3名の派遣を行い、県士会内で連携した組織づくりを行える仕掛けを作る。
- 取り組むべきテーマは、県士会が共通で抱えている課題をピックアップし、情報交換を行う中で解決のヒントを得られる仕組みにしていく。
- 情報交換を行うことで参加者同士が士会の枠を超えて連携できるようにする。

このような方向性を踏まえ、以下の3つのテーマに取り組んでいただくこととしました。

テーマ1：学会参加者を増やすための企画

テーマ2：市町村ごとに窓口となる人材を養成するための企画

テーマ3：県士会活動に参画してくれる人材を発掘し、次世代幹部候補者の養成につなげる企画

第1回目研修会は令和元年10月26日・27日の2日間にわたり開催しました。

3つのテーマに対して各県士会から推薦者3名を選出し、1名ずつ各テーマを担当し、当日の研修会に参加しました。内容としても、グループディスカッションが7割程であり、参加者が活発に意見交換・企画の提案を行う研修会を実施しました。

第2回目研修会は、令和2年10月5日(月)に開催しました。

Web研修会として実施し、前回と同様、県士会推薦者の方が中心に参加しました。さらに深刻化したコロナ禍の状況で、前年度企画した事業案を実践することが難しい状況もありましたが、各テーマに分かれてグループディスカッションを行い、各県士会の進捗状況報告や意見交換が熱心に行われました。

第3回目研修会は、令和3年11月11日(木)に前年度同様Web研修会として開催しました。各県士会で進めている事業や企画の進捗状況を報告するとともに解決すべき課題を提示し、グループワークでその課題について討議しました。過去2回とは異なり、推薦者以外の方々にも多数参加していただきました。

そして、今回九州作業療法学会の企画として3つのテーマについて各県士会の取り組みについて最終報告をすることになりました。各県の推薦者が、どのように周囲に働きかけながらそれぞれのテーマに取り組んできたか?そのプロセスや成果・結果を発表し、その経験を通してこれからの県士会活動・リーダー養成について意見交換を行う予定としています。

下記に報告会スケジュールを明記しました。

報告会では気軽に質問が行えるように企画しておりますので、ぜひご参加ください。

3年間の集大成!

今回の経験を通して「リーダー養成」について語り合おう!!

○報告会タイムスケジュール

- 9:00 開会の挨拶・企画の説明
- 9:10 各県士会からの報告
- 10:40 「リーダー養成とは?」フロアディスカッション
- 11:10 士会長が考える「リーダー養成」について
- 11:30 閉会の挨拶

A series of horizontal dashed lines for writing.

一般演題
プログラム

一般演題

セッション1 6月18日(土) 11:10～12:10

第2会場(Zoomミーティング)

[優秀演題発表]

座長：倉富 眞(医療法人清明会 きやま鹿毛医院)

SS-1 健常者における言語を用いた音源定位に対するプリズム順応の影響

松尾 崇史 熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科

SS-2 FIM 認知項目と退院先との関係性

牟田 健人 一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

SS-3 中指玉井分類 zone IV切断指再接着術後に早期運動療法を行った1例

松延 勇志 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

SS-4 当院の通所リハビリテーション利用者における
MMSE と2ステップ値の関連性の分析

山口 未貴 町立太良病院

SS-5 機能的グループモデルに基づく学内実習の学修効果
～自己効力感と職業的アイデンティティの変化～

青山 克実 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

セッション2 6月18日(土) 11:10～12:10

第3会場(Zoomミーティング)

[精神障害]

座長：阿部 数也(医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院)

01 若年層のネガティブな反すう思考の実態調査

田縁 麻衣子 医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

02 座位姿勢の変化が認知症患者へ与える影響

田縁 尚 独立行政法人国立病院機構 菊池病院

03 精神科救急病棟におけるレクリエーションの効果検証
～気分の変化に着目して～

竹谷 健太郎 医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

04 うつ病患者に対する運動アプローチ
～患者の声をもとに運動の治療因子を分析～

前川 貴俊 特定医療法人富尾会 桜が丘病院

05 長期間ひきこもりの統合失調症患者に対する再発予防
～社会とのつながりの回復を目指して～

増田 達也 医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

06 作業療法の可能性を拡げた互助の力
～利用者と友人で成し得た喜びの瞬間～

西村 彬 九州大学大学院 統合新領域学府ユーザー感性学専攻
感性コミュニケーションコース 博士前期課程

07 回復期リハビリテーション病棟退院時のADLが
介護負担感に及ぼす影響について

岩本 枝李咲 社会医療法人寿量会 熊本機能病院

08 長期療養患者における趣味活動再開に向けた取り組み
～MTDLPを活用した主体的な目標設定を大切に～

自見 美菜 医療法人杏林会 村上記念病院

09 当院の通所リハビリテーション利用者の4ヶ月間の変化と
作業療法士の役割の考察

松尾 采奈 町立太良病院

10 運転支援後の追跡調査からみえた傾向と今後の課題

甲斐 亨 社会医療法人小寺会 佐伯中央病院

11 その人らしいらしの再構築を目指した運転支援のあり方を考える(第1報)
—当院外来の運転支援の現状と症例の支援経過を振り返って—

仲野 綱一郎 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院

12 SDSA と他の神経心理検査との関係性について

秀島 樹育 社会医療法人三佼会 宮崎病院

13 数回の実車評価により自動車運転再開可能となった左被殻出血の患者との関わり

高松 孝成 医療法人清和会 平成とうや病院

[MTDLP]

座長：佐々木 絵里(医療法人 清心会 服巻医院)

14 頸椎術後 C5 麻痺を呈した症例に対する機能改善・ADL 向上を目指した介入
～急性期にて MTDLP を活用した症例～

藤野 歩 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

15 生活行為向上マネジメントを用いた介入により
娘の協力を得ながら生きがいであったカステラ作りを再開できた一事例

木原 翔太 社会医療法人 寿量会 介護老人保健施設 清雅苑

16 重度右麻痺を呈し急性期にて MTDLP を用いて介入した症例
～自宅復帰し孫を両手で抱きしめられるように～

田中 智隆 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

17 多職種での関わりが自信の回復に繋がった症例
～ MTDLP を活用して～

大崎 亮 社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会唐津病院

[高齢期②]

座長：富永 美紀(多久市役所 地域包括支援課)

18 薬剤性パーキンソニズムを有した事例の在宅復帰とその後の経過
一薬物有害事象に気づいた OT はどのような介入を行ったか一

川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー

19 交流の場が生活の質へもたらす効果

小野 興輝 医療法人平川病院 介護老人保健施設アメリティキゅうらぎ

20 要介護者のデイケア卒業要因について

西 秀崇 医療法人 天心堂 志田病院

21 認知機能低下の有無による買い物時の困りごとの違い

仙波 梨沙 西九州大学

22 多職種連携と個別性を持った作業療法の重要性

重藤 ひかる 社会医療法人敬和会 大分岡病院

[脳血管障害]

座長：南 修平 (医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院)

- 23** 機能的電気刺激 (FES) で上肢随意の向上と意欲向上により
ADL 自立に繋がった一例
宮崎 光成 医療法人社団 威光会 松岡病院
- 24** 脳梗塞を呈した症例への車椅子シーティング
～麻痺側上肢での食事動作獲得に向けて～
猪口 達也 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院
- 25** COPM を導入し ADL 獲得が図れた症例
～自己効力感の再獲得と家族との関わり～
財津 三奈美 社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院
- 26** 回復期リハ病棟における脳卒中片麻痺患者の麻痺側上肢を
生活場面で使用するための支援
～課題指向型アプローチと麻痺側上肢チェックシートを導入した事例～
園田 穂茄美 社会医療法人 令和会 熊本リハビリテーション病院
- 27** 脳卒中後、上肢の軽度運動麻痺患者へ
促通反復療法と課題指向型訓練の併用療法後に modified CI 療法を実施し、
日常生活での使用頻度、動作の質の向上と継続に繋がった一症例
武次 周介 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院

[身体障害]

座長：山科 啓太 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会唐津病院)

- 28** 呼吸器疾患患者の入院期間長期化の要因分析
—ロジステック回帰分析による要因—
重藤 旭 医療法人社団 高邦会 高木病院
- 29** 促通反復療法と前腕回内外リハビリ装置の併用療法により、
上肢手指機能に良好な結果を得た頸椎症性脊髄症患者の一例
小川 耕平 医療法人玉昌会 加治木温泉病院
- 30** COVID-19 感染後の筋萎縮と脳梗塞による重度上肢麻痺に電気刺激療法を実施し、
意味のある作業の獲得に繋がられた症例
吉村 郁香 社会医療法人財団池友会 福岡和白病院
- 31** 小脳挫傷による拮抗運動反復不全に対しリズム運動が有効であった一例
高倉 沙樹 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター
- 32** 当院一般病棟における肺炎患者の再入院率と現状と課題
山下 幹太 医療法人社団東洋会 池田病院

[地域・発達]

座長：西村 彬(九州大学大学院 統合新領域学府ユーザー感性学専攻
感性コミュニケーションコース 博士前期課程)

- 33** 『一緒にいて楽しいです』
～福祉用具活用して夫の介護不安軽減が得られた事例～
山中 勇人 医療法人 智仁会 佐賀リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション吉原
- 34** 【知的及び身体障害を呈した症例の就労支援】
本人の「働きたい」をサポートする体制の構築
清水 由佳 特定非営利活動法人ゆとり 新武雄在宅復帰への道の家
- 35** 当院短時間通所リハビリテーションの治療成績
兵働 弥大 医療法人 尽心会 百武整形外科スポーツクリニック
- 36** 精神科デイケアセンターにおける橈骨遠位端骨折受傷者への介入
～自作のペグボードを用いて手指の自主運動訓練を指導～
松葉 幸典 医療法人祥風会 甘木病院
- 37** 脳性麻痺を伴う頸椎症性脊髄症術後の作業療法
—生活行為向上マネジメントを用いて—
西 優伽 社会医療法人財団池友会 新小文字病院

[高次脳機能障害]

座長：佐古 英樹(医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院)

- 38** 毎日の振り返りノートを用いた作業療法により、
肯定的なセルフフィードバックが可能になった一症例
～高次脳機能障害、重度感覚障害に対する認知行動療法の効果検討～
井形 恵実 公益財団法人健和会 大手町リハビリテーション病院
- 39** 自己効力感の向上を促し活動・参加の改善をめざして
～頸椎硬膜内髄外腫瘍術後で抑うつ傾向となった症例への介入～
宮崎 真由 医療法人社団東洋会 池田病院
- 40** 回復期リハ病棟における左片麻痺患者の復職に向けた介入
～模擬的練習が有効であった一症例～
小野 仁美 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院
- 41** 急性期にて病棟内のADLが自立している
若年性脳卒中患者に高次脳機能評価を実施した事例について
今山 幹太 社会医療法人財団池友会 新小文字病院

[運動器疾患]

座長：兵働 弥大 (医療法人 尽心会 百武整形外科スポーツクリニック)

- 42** LRSA を施行した母指 CM 関節症術後患者の短期経過に破局的思考は影響するか
有川 智之 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション科
- 43** 橈骨遠位端骨折の術後早期安静時痛が与える関節可動域制限の特性とその要因
野村 百香 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション科
- 44** 障害受容に着目して行動範囲や自主訓練に変化が見られた症例
～現職復帰を目指して～
眞鍋 宇 社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院
- 45** 自動運動不良な前腕コンパートメント症候群へのアプローチ
～食器把握動作の獲得を目指して～
宮川 達好 医療法人山部会 くまもと成城病院
- 46** 重度熱傷による両下肢下腿切断患者の自宅退院へむけて
～コロナ禍における家族の在宅生活に対する不安への介入～
宮原 優太 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

[管理運営・教育]

座長：堀 邦広 (地域医療機能推進機構 佐賀中部病院)

- 47** 精神障害分野は測ろう
—精神障害分野作業療法士の評価実施に関する実態—
杉村 彰悟 医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院
- 48** 「タイプ分け™」を活用し日々の業務,
フィードバックを工夫した新人職員の指導経過報告
三宅 陽平 社会医療法人財団 白十字会 耀光リハビリテーション病院
- 49** 産業保健分野での作業療法という可能性
～「おおいた心と体の職場環境改善アドバイザー」派遣事業を通して～
児玉 隆典 公益社団法人 大分県作業療法協会
- 50** 消化器外科手術患者における倦怠感と ADL の関連性
中島 大輔 地方独立行政法人 北九州市立医療センター
- 51** 肩関節筋力測定における小型デジタルスケールの臨床有用性に関する研究
宮本 忠司 熊本大学病院

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
三 役	学 会 長	山口 洋一	特定医療法人静便堂 白石共立病院
	副学会長	小池 保徳	佐賀県在宅生活サポートセンター
	実行委員長	江渡 義晃	一般社団法人 わたぼうし
学 術 局	局 長	前田 憲志	医療法人清心会 服巻医院
	副 局 長	中倉 孝行	医療法人天心堂 志田病院
	企画部長	仙波 梨沙	西九州大学
	部 員	伊藤 恵美	西九州大学
		尾崎 望美	医療法人二期会 小島病院
		尾鷲 百佳子	社会福祉法人若楠 若楠療育園
		松江 志保	医療法人啓仁会 橋本病院
		堀田 和也	株式会社ルーツ 訪問看護ステーションバルーン
		西村 愛	伊万里有田共立病院
		諸岡 健志	社会福祉法人恩賜財団 済生会唐津病院
	査読部長	植田 友貴	西九州大学
	部 員	押川 武志	西九州大学
		松尾 萌美	西九州大学
	編集部長	藤原 和彦	西九州大学
	部 員	松谷 信也	西九州大学
		千綿 寛美	特定医療法人静便堂 白石共立病院
		田中 希	特定医療法人静便堂 白石共立病院
猪口 達也		医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院	
相 談 役	江渡 義晃	一般社団法人 わたぼうし	

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先	
運 営 局	局 長	寺崎 司	医療福祉専門学校 緑生館	
	副 局 長	佐々木 裕志	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院	
	会場運営部長	桑原 知泰	医療法人 信愛整形外科医院	
	会場運営副部長	鬼塚 北斗 中尾 亮太	一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 特定医療法人杏仁会 神野病院	
	部 員	阿部 数也 前田 瑞貴 牟田 健人 林田 捺月 田中 智隆 佐古 英樹 谷口 史弥	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 特定医療法人静便堂 白石共立病院	
	懇親会担当	小松 友明 田中 知基	株式会社 ゆうあい 特定医療法人杏仁会 神野病院	
	企業展示担当	石原 伸二郎 本村 祐介	介護老人保健施設 ふれあいの里 道海 介護老人保健施設 徐福の里	
	アナウンス部員	富永 美紀	多久市役所 地域包括支援センター	
		大石 華子	医療法人清明会 やよいがおか鹿毛病院	
	相 談 役	小池 保徳	佐賀県在宅生活サポートセンター	
	事 務 局	局 長	熊谷 隆史	医療福祉専門学校 緑生館
		総務部長	井本 文也	医療法人醇和会 有島病院
部 員		石田 真由 瀧下 勇介	医療福祉専門学校 緑生館 医療法人醇和会 有島病院	
広報部長		植村 雄磨	医療法人朋友会 山口病院	
部 員		高森 朱里 武富 妃美希 坂本 はるか	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院	
デザイン班		前田 絵里奈 横尾 篤	医療法人 ひらまつ病院 医療法人 ひらまつ病院	
財務部長		中山 泰人	医療法人 ひらまつ病院	
部 員		清水 貴之 山本 剛平 武富 裕子	医療法人 ひらまつ病院 医療法人 ひらまつ病院 医療法人 ひらまつ病院	

協賛企業一覧(順不同)

■ 学会誌広告

株式会社 大平タイハイ M & C
株式会社 ミズ
株式会社 フロンティア 佐賀営業所
株式会社 シダー
株式会社 エヴァ エヴァ佐賀
九州電力株式会社
医療福祉専門学校 緑生館
NPO 法人ふれあいねっとサガンズ
西九州大学大学院
山下医科器械株式会社
有限会社 佐賀有蘭義肢製作所

■ ホームページバナー及び Zoom 内 CM

アルジョ・ジャパン株式会社
オージー技研株式会社
木村情報技術株式会社

後援団体一覧(順不同)

佐賀県

佐賀市

一般社団法人 佐賀県医師会

一般社団法人 佐賀県歯科医師会

一般社団法人 佐賀県薬剤師会

一般社団法人 佐賀県精神科病院協会

公益社団法人 佐賀県看護協会

公益社団法人 佐賀県理学療法士会

一般社団法人 佐賀県言語聴覚士会

公益社団法人 佐賀県栄養士会

公益社団法人 佐賀県社会福祉士会

一般社団法人 佐賀県介護福祉士会

一般社団法人 佐賀県介護老人保健施設協会

公益社団法人 佐賀県介護保険事業連合会

公益社団法人 認知症の人と家族の会 佐賀県支部

社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

佐賀県歯科衛生士会

佐賀県精神保健福祉士協会

佐賀県老人福祉施設協議会

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

一般社団法人 日本作業療法士協会

特定非営利活動法人 佐賀県放課後児童クラブ連絡会

特定非営利活動法人 障害者自立生活支援センター ドリーム・ロード

佐賀新聞社

サガテレビ

NBC ラジオ

エフエム佐賀

編集後記

このたび、九州作業療法学会2022 in 佐賀の学会誌を皆様にお届けすることができたことを、たいへん嬉しく思います。また、本誌の作成に携わってくださった多くの方々に対し、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、本学会のテーマは、『維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～』です。世界的に拡大する新型コロナウイルス(Covid-19)感染症の影響を受け、私たちの暮らしや生活様式は変化してきました。その中で「作業療法」は、今後どのように在るべきなのでしょう…。「これまでの伝統を育み、未来へつないでいく作業療法」、そして、「新たなものを創造していく作業療法」、今後の発展には、そのどちらも欠かせないものと考えます。

わが国は、もうじき2025年問題に直面します。ポストコロナ・ウィズコロナの時代に起こるであろう多くの社会問題に対し、本学会が「維遂(いと)」する議論の場を提供できれば幸いです。

さいごに、本学会を開催するにあたり、ご支援いただきました各団体・法人の皆さま方に謹んで感謝申し上げます。今後も九州作業療法学会は、作業療法の専門性を育み、そして未来へつないでいくことで、地域社会へ貢献できると信じています。九州における作業療法が益々発展することを祈念し、編集後記とさせていただきます。

九州作業療法学会2022 in 佐賀
編集部長 藤原 和彦

〈次期開催予定〉

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島

未来へ

～作業療法の創造と融合の可能性～

会 期：2023年7月8日(土)・9日(日)

会 場：かごしま県民交流センター
(〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50)

学会長：吉満 孝二(鹿児島大学 医学部 保健学科)

主 催：九州作業療法士会長会

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

発行者：九州作業療法士会長会

事務局：一般社団法人 佐賀県作業療法士会
〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566
医療福祉専門学校緑生館内
E-mail：kyuot2022@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



九州作業療法学会2022 in 佐賀 事務局

一般社団法人 **佐賀県作業療法士会**

〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566

医療福祉専門学校緑生館 内

E-mail: kyuot2022@gmail.com

学会HP <https://kyuot2022.secand.net/>